

令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	9人	算数	9人	理科	9人
------	----	----	----	----	----	----

第5学年	国語	9人	算数	9人	理科	9人
------	----	----	----	----	----	----

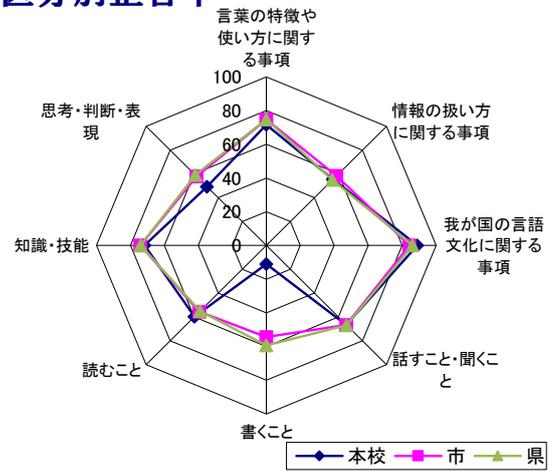
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.6	74.7	74.8
	情報の扱いに関する事項	55.6	58.4	55.0
	我が国の言語文化に関する事項	88.9	84.3	86.1
	話すこと・聞くこと	66.7	66.7	66.9
	書くこと	11.1	54.3	59.3
観点	読むこと	59.7	55.6	55.2
	知識・技能	71.7	74.1	74.0
	思考・判断・表現	49.3	58.0	59.1



★指導の工夫と改善

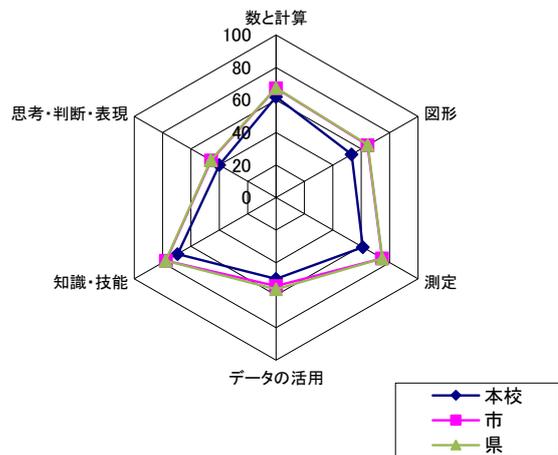
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて3.1ポイント下回った。 ○漢字の読みについての設問では、市の平均とほぼ同程度で、正答率が約9割であった。 ●漢字を正しく書く問題では、設問ごとの正答率が100%～約30%と、大きく振れ幅があった。 ○絵を見て正しい指示語を選ぶ問題では、正答率が100%であり、市の平均を6.6ポイント上回った。	・漢字の書きについて、まだまだ課題が見られた。漢字を正しく書く力をしっかりと定着させるために、宿題や朝の学習の時間を中心に繰り返し練習を行っていく。 ・ローマ字を正しく読む問題に関しての正答率が低かったため、引き続き学校全体で取り組んでいる復習プリント（マスターカード）やAIDリルに取り組みせたり、定期的な小テストを行ったりするなど、次年度の学習に繋がれるように復習を行っていく。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は、市の平均と比べて2.8ポイント下回ったものの、ほぼ同程度であった。 ●大問3(5)の、例文で用いられた言葉について、国語辞典から正しい意味を選択する問題では、本校の正答率が55.6%であり、宇都宮市全体の傾向と同様に、約半数の児童が苦戦していた。	・国語の学習を中心に、国語辞典を使って単語や慣用句を調べることを習慣化させていくとともに、基本的な言葉の意味を知識として定着させるために、繰り返し復習に取り組んでいく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均と比べてやや高く、4.6ポイント上回った。 ○漢字の偏を選ぶ設問では、約9割の児童が正解することができた。	・新出漢字を学習する際に、ドリルを使って部首や漢字の成り立ちを確認したり、一人一台端末を活用し、部首の仲間分けを行ったりしたことによる成果が見られたと考えられる。引き続き、漢字に興味・関心を持たせるような指導を行っていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均と等しく66.7%であった。 ○話し手が伝えたい内容の中心を捉え、選択する問題では、本校の正答率が100%であった。 ●参加者の発言に着目し、司会者の発言に適合する内容を書く問題では、本校の正答率が11.1%であり、市の平均を17.1ポイント下回った。	・話し手の伝えたい内容の中心を捉える問題において、全員が正解することができたことから、話し合いやインタビューなどを行う際に、必要なことをメモしたり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を考えながら話を聞いたりするよう繰り返し指導してきた成果が見られたと考えられる。一方で、内容は理解しているものの、それらを自分の言葉で要約するという点では全体的に課題が見られたため、朝の学習を中心に練習を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低く、43.2ポイント下回った。 ●大問6の、こん虫を調べる方法について、自分の考えを文章で書く問題では、約4割の児童が無解答であった。また、与えられた条件に沿って文章を書くことができた児童がおよそ1割程度であった。	・国語や朝の学習の時間、マスターカードなどを使って、作文用紙の使い方、段落分け、文の構成について学習を振り返り、まずは正しい形で文章を書けるようにする。 ・普段から、自分の考えを文で表すことに苦手意識を持っている児童が多く見られるため、ミニ作文などの演習問題に繰り返し取り組ませることで自信をつけさせ、作文に対する抵抗を取り除く。
読むこと	平均正答率は、市の平均と比べてやや高く、4.1ポイント上回った。 ○大問4の物語文を読み取る設問では、全ての小問において市の正答率を上回った。 ●大問5(1)の説明文を読み、その内容から前半と後半に分ける問題では、本校の正答率が0%であり、市の平均を14.2ポイント下回った。	・学校全体として文章問題に焦点を当て、マスターカードなどで繰り返し練習を行ってきた成果が見られたと考えられる。 ・引き続き、文章を読む時に、時間や場所、様子を表すキーワードを見つけながら読み進めていくよう指導していく。 ・読書をより習慣化させ、長文への抵抗を無くしていく。 ・説明文を読む際にも、話し手の伝えたい内容の中心を考えながら読み進めるよう指導していく。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.0	67.3	67.4
	図形	53.3	64.5	64.7
	測定	61.1	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	69.4	77.6	77.8
	思考・判断・表現	40.0	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

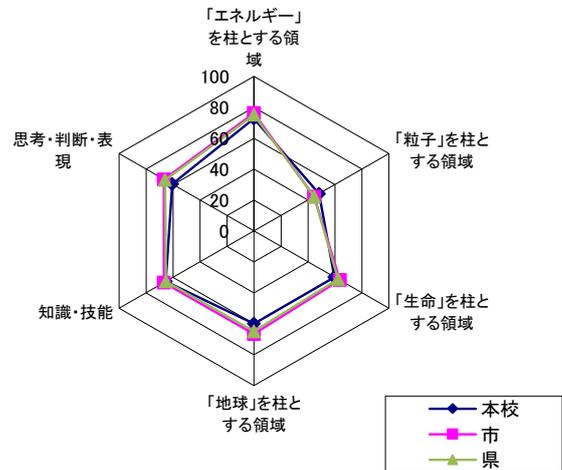
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低く、5.3ポイント下回った。</p> <p>○大問3については全体的に県の正答率を上回り、小数のしくみや表し方について十分な理解と定着が図れている。</p> <p>●大問2(1)の分数の大きさを表す問題では、県の正答率59.4%よりかなり低く、29.4ポイント下回った。分数の表す大きさについての理解に課題が見られる。</p> <p>●大問4(5)の整数-小数第一位の計算をする問題では、県の正答率を27.7ポイント下回った。整数-小数の計算に対しての苦手意識が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な四則計算の方法については身に付いているので、分数や小数の場合の計算の方法についてもう一度確認する。 復習問題に継続して取り組み、定着を図る。
図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低く、11.2ポイント下回った。</p> <p>○大問9(1)は正答率90%で、円の直径や、半径についてよく理解している。</p> <p>●大問10(1)の二等辺三角形の作図は、市の平均を14.7ポイント下回り、校内正答率は70%だった。また、大問14(1)円の中心とコンパスの使い方についての問題の正答率は30%となり、作図に関して苦手意識が見られる。</p> <p>●大問14(2)の円の性質を考え、コンパスを使って正三角形が作図できることを説明する問題では、正答率が10%となった。図形の定義についての理解とそれを説明することに関して、課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な作図の問題に繰り返し取り組むことで、コンパスを用いた正確な図形が描けるようにする。 図形の定義に対して理解を深めるため、プリントやドリルを用いたり、掲示して視覚的に情報が入るようにしたりするなど、繰り返し内容に触れる機会を増やして指導する。
測定	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低く、13.6ポイント下回った。</p> <p>○大問11(1)は正答率80%で、道のりの求め方についておおむね理解している。</p> <p>●大問12(1)はかりの目盛りを読みとる問題では、正答率が10%と市の平均を40.1ポイント下回る結果となった。はかりの目盛りを正確に読み取ることに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近にあるものの重さを量ったり、正しい単位を用いて表したりすることで、量や大きさについて実感を持った理解が図れるようにする。
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均と同程度の50%となった。</p> <p>○大問13(1)の棒グラフを読みとる問題では、県や市を上回り、正答率は100%であった。棒グラフを正しく読みとり、問題に答えることができています。</p> <p>●大問13(2)の2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら棒グラフを読みとる問題については、正答率が0%であった。1目盛りの数が異なる2つの棒グラフの読みとりについては課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1目盛りの数が異なる棒グラフの復習問題に継続して取り組んでいく。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.7	76.2	75.1
	「粒子」を柱とする領域	48.2	44.5	44.5
	「生命」を柱とする領域	59.6	63.6	62.3
	「地球」を柱とする領域	60.0	66.6	64.9
観点	知識・技能	65.4	66.8	65.4
	思考・判断・表現	60.7	66.8	65.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低く3.5ポイント下回った。</p> <p>○磁石に引き付けられる缶の材質や電気が流れるつなぎ方の正答率は100%であった。基本的事項をよく理解している。</p> <p>●実験結果のゴムのばす長さや車の動く距離の関係から、ゴムの長さを適切な長さを推測する問題の正答率が11.1%と市の平均よりも47.2ポイント下回っている。実験結果から推測をたてることに課題が見られる。</p>	<p>・理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な知識理解の向上に努める。</p> <p>・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや高く3.7ポイント上回った。</p> <p>○形を変えても重さはかわらないことや、ものの重さから同じ種類の木でできている積み木を推測できるかどうかを見ることが6割程度理解できていた。</p> <p>●姿勢を変えて測った体重が変化するかを実験の結果をもとに記述できるかどうかの問題の正答率は0%と市の平均よりも10.1ポイント下回っている。</p>	<p>・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低く4ポイント下回った。</p> <p>○生き物の観察記録として必要な項目を理解しているかどうかの問題の正答率は市の正答率と同じであった。</p> <p>●ハウセンカの成長や昆虫の体のつくりの特徴の理解、クモが昆虫ではない理由を記述できるかどうかの問題は、市の平均よりも15ポイント程度下回っている。</p>	<p>・理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な知識理解の向上に努める。</p> <p>・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は、市の平均と比べてやや低く6.6ポイント下回った。</p> <p>○日なたと日かげの地面の温度変化を理解しているかどうかの問題の正答率は市の正答率と同じであった。</p> <p>●太陽の位置の変化を方位で理解しているかどうかの問題での正答率は22.2%で、市の平均よりも23.5ポイント下回っている。太陽の位置の変化を方位で理解することに課題が見られる。</p>	<p>・理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な知識理解の向上に努める。</p> <p>・実験を行う際は、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。また、実験器具や道具の使い方、使う理由についても明確にし、理解を深められるようにする。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問に肯定的に回答している児童の割合はいずれも100%であり、「家で、テストで間違えた問題について勉強している」という質問に対して「はい」と回答した児童の割合は県全体の回答より30ポイント高いことから、家庭学習の意義や大切さをよく理解し、しっかりと取り組んでいること分かる。

また、「勉強をしていて、面白い、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」という質問に肯定的に回答した児童の割合は90%以上であり、学習に対する興味関心が高いことが窺える。今後も継続していけるように、児童の学習への意欲を掻き立てる授業づくりや声掛けを意識しながら、深い学びにつながるよう指導の充実を図っていきたい。

○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問に対して、「2時間以上」もしくは「1時間以上、2時間より少ない」と回答した児童の割合は、県の平均を10ポイント以上上回っていて、日ごろから読書に親しむ習慣が身についている児童が多いことが分かる。絵本や物語を好んで読む児童が多い傾向にあることから、図書館司書教諭と連携を図りながら、既習事項と関連した本を紹介したり自主学習に活用させたりして、読書を通して学習への意欲を高める取り組みをしていきたい。

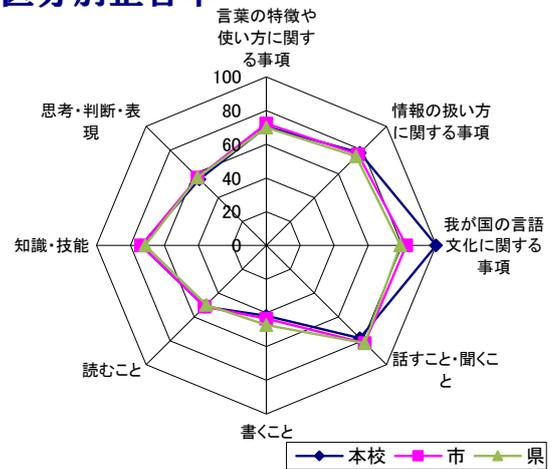
○「自分にはよいところがあると思う」「自分も持っている能力を十分に発揮したい」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という質問に肯定的に回答している児童の割合は90%以上であり、自己肯定感の高さや、人の役に立ちたいという意識の高さが窺える。特に学級活動や委員会活動といった学習以外の活動で、子供たちが自身の持ち味を発揮し、よりよい自分を目指した学校生活を送れるよう、指導に当たってきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問に肯定的に回答している児童の割合は90%であり、市や県の平均よりも20ポイント以上高い。それに対して「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という質問に対して「はい」と回答した児童の割合は70%で市や県の平均よりも30ポイント近く高い。このことから、話し合い活動で考えを深めたり広げたりすることはできていても、それを文章化してまとめることが苦手であると読み取れる。キーワードを拾いやすいような見やすい板書の工夫や、文章化するためのテンプレートの提示、考えを整理するための付箋の活用などをして、文章化することへの困難さを解消していきたい。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.4	72.3	70.0
	情報の扱い方に関する事項	77.8	76.4	74.9
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	82.4	78.9
	話すこと・聞くこと	77.8	81.9	82.0
	書くこと	41.7	43.5	47.2
	読むこと	51.4	51.4	49.8
観点	知識・技能	73.7	73.6	71.3
	思考・判断・表現	55.6	57.1	57.2



★指導の工夫と改善

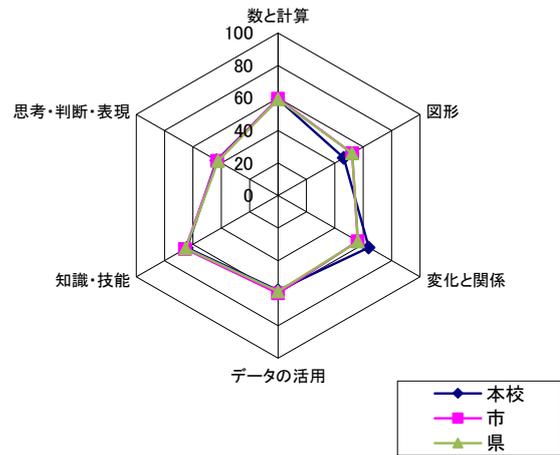
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は70.4%で、市の平均と比べ1.9ポイント下回っている。</p> <p>○漢字の読むことに関しては、3問中2問が正答率100%であった。</p> <p>●漢字の書くことに関しては、3問中2問の正答率が44.4%で、市や県の正答率と比べて低い。</p> <p>●連用修飾語についての理解が不十分で、正答率は0%であった。</p>	<p>・漢字の習得については、宿題や朝学習等で繰り返し練習に取り組む。また、単元ごとのミニテストや学期末のまとめテストを計画的に実施することで定着を図る。</p> <p>・修飾語に関する理解については、文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるよう、言葉に着目した指導の充実を図る。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>平均正答率は77.8%で、市の平均と比べ1.4ポイント上回っている。</p> <p>○辞典の使い方について、ほぼ理解できている。</p>	<p>・漢字辞典や国語辞典の使い方に関しては、発達段階に応じて適切に指導していくとともに、日頃から辞書を使うことを習慣化していく。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は100%で、市の平均と比べ17.6ポイント上回っている。</p> <p>○ことわざの意味を知り、正しく使うことができている。</p>	<p>・ことわざや慣用句については、授業の中で繰り返し復習を重ねていったり、自主学習等で取り組んだりすることで言語文化に触れる機会を増やし理解を深めていく。</p>
話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は77.8%で、市の平均と比べ4.1ポイント下回っている。</p> <p>●話し手の工夫の共通点を説明した文として適するものを選ぶ問題に課題が見られる。</p>	<p>・聞き取った内容を友達に伝えたり、意見や質問で話をつないだりするなど、表現する活動の充実を図る。</p>
書くこと	<p>平均正答率は41.7%で、市の平均と比べ1.8ポイント下回っている。</p> <p>●アンケート結果から読み取ったことを書く問題に課題が見られた。条件に合わせて文章を書く問題において、無回答率が44.4%と高い。</p>	<p>・今後も他教科や行事と関連を図り、作文、発表原稿など文章を書く機会を増やし、書くことに慣れさせるとともに、適切な意見や感想を文章にまとめる力をつけていく。</p> <p>また、学年に応じて書くために必要な言語力を高める指導をしていく。</p> <p>・個人差が出やすい領域なので、個別指導に力を入れていく。</p>
読むこと	<p>平均正答率は51.4%で、市の平均と等しい。</p> <p>●物語文の読み取りは、文章を読み、その内容を説明した文の空欄に適する言葉を書く問題に課題が見られた。</p>	<p>・物語の読み取りでは、登場人物の行動や気持ちを説明したり、それらを基に具体的に想像したことなどを文章にまとめて発表したりする活動を取り入れる。その際は、考えの根拠となる叙述を具体的に示させるとともに、自分の考えの理由付けについて説明できるようにする。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	59.3	59.7	59.2
	図形	46.3	52.1	52.1
	変化と関係	63.9	56.1	56.3
	データの活用	58.3	60.1	58.9
観点	知識・技能	64.3	65.5	65.1
	思考・判断・表現	43.3	42.9	42.4



★指導の工夫と改善

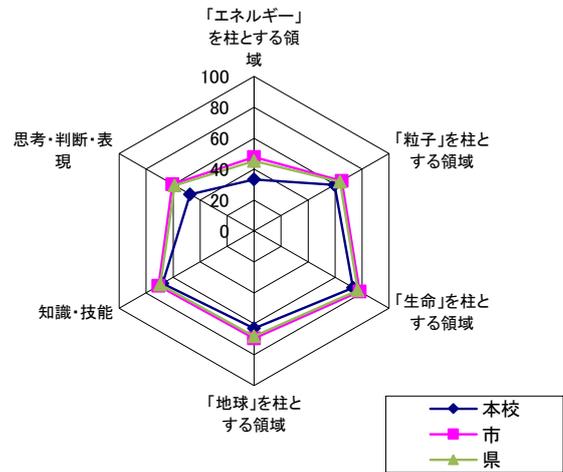
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均と同程度である。</p> <p>○大問番号4(3)帯分数－真分数＝真分数では、県平均が73.2ポイントと低いのにに対し、88.9ポイントと10ポイント以上高い数値になっている。</p> <p>●式の意味を言葉で説明する問題では、県平均が51ポイントに対し、33.3ポイントと約20ポイント程度低くなっている。</p>	<p>・基礎的な計算が定着していない児童と発展問題までできている児童がいるので、基礎的な問題に取り組む児童と発展問題に挑戦する児童とに分けて対応していく。</p> <p>・基礎基本の問題がおおむねできている半面、言葉で説明する問題に課題が見られることから、授業の中でお互いの意見を説明し合ったり、ノートに説明を書かせたりすることで考えを深く理解させるようにする。</p>
図形	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。5.8ポイント下回っている。</p> <p>○大問番号11(2)の正答率が高く、県の平均を15ポイント以上、上回った。面積の単位について、上位層の児童がよく理解している。</p> <p>●角度や図形の問題において全体的に低い傾向がある。特に、三角定規を利用して正しい角度を求める問題では、市の平均を30ポイント以上下回った。</p>	<p>・基礎的な図形の問題についての定着を図るとともに、ICTなどを活用し角や図形の理解を深める。</p> <p>・三角定規の角度や図形の既習事項を再度確認し、同単元のはじめなどに復習をする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市の平均と比べて高い。7.8ポイント上回っている。</p> <p>○大問番号6(1)の正答率が88.9ポイントで市平均を20ポイント以上上回っていることから、数量の関係を正しく図で表すことについてよく理解している。</p> <p>●言葉や数を使って説明する問題では、市・県平均同様に20ポイント台になっていて低い傾向が見られる。</p>	<p>・変わり方調べに関する問題に慣れさせるため、問題を解く時間を確保し、表の見方・考え方の定着を図る。</p> <p>・数と計算の領域と同様に、互いの意見について説明する授業展開を行う。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市の平均と比べて低い。1.8ポイント下回っている。</p> <p>●二次元表の問題に関しては、全員誤答している。引き続き個別の支援が必要である。</p>	<p>・練習問題を繰り返し、個別支援をしていく。</p> <p>・文章を読み解きながら表を完成させるような深い思考を必要とする問題についての誤答が多いので、順序だてて問題を解く方法や考え方について丁寧に説明し、理解が深まるようにする。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	33.3	47.8	45.3
	「粒子」を柱とする領域	59.6	64.9	63.6
	「生命」を柱とする領域	73.3	78.2	76.8
	「地球」を柱とする領域	63.0	69.5	68.1
観点	知識・技能	67.8	70.8	69.5
	思考・判断・表現	47.5	60.5	58.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>●3問中すべて市の平均正答率を下回った。</p> <p>●並列つなぎの名称を答える問題では、「直列」という誤答が見られた。</p> <p>○簡易検流計の針のふれ方から「向き」「大きさ」がわかると答える問題では、無回答が非常に少なかった。</p> <p>●電流が大きくなる回路を選ぶ問題では、正答率が44.4%と市の正答率を下回った。</p>	<p>・今後も体験的な活動を充実させ、児童の学習の積み重ねが図れるようにする。</p> <p>・実験や観察を行う前に、基本的な用語や語句の意味を正確に理解できるようにし、実験の充実を図る。</p> <p>・実験を行う際は、基本的な語句を適切に捉えて行えるようにし、実験の意味や目的を明確化し、丁寧に指導するよう努める。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○温度を下げるために、氷の入ったビーカーに入れるものを選ぶ問題では、正答率が100%であり、市の87.1%を大きく上回った。</p> <p>○空気や水の体積に関する問題では、2問中2問とも市の平均正答率を上回った。</p> <p>●金属の温度と体積に関する問題では、2問中2問とも市の平均正答率を下回り、記述問題の正答率が33.3%と市の正答率62.4%を29.1ポイント下回った。</p>	<p>・今後も身の回りの現象など、児童にとって捉えやすい内容について、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、日頃から現象について触れる機会を設ける。</p> <p>・実験結果の理由などについて、児童が自分の言葉で説明する場を積極的に設け、児童が得た知識を活用する機会を増やす。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○気温や動物の季節による違いや腕を曲げたときの筋肉の様子など、身近な問題の正答率が市の平均を上回った。</p> <p>●冬に向け桜の枝が変化の様子を答える問題やヒトの骨のつなぎ目を「関節」と答える問題では、市の正答率を下回った。</p>	<p>・今後も身の回りの動植物など児童にとって捉えやすい内容については、基礎的な語句の定着や知識理解の向上に努めるとともに、教科書で取り扱う動植物のほかにも例を挙げ、児童の知識の幅を広げることに努める。</p> <p>・季節の移り変わりに伴う動植物の変化など、一連の流れで覚えるものについては授業での指導に加え、掲示物等で視覚的に捉えやすくし、理解を深められるようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>平均正答率は市の平均より低い。</p> <p>○月の形の名称を答える問題では正答率が100%で、空気中の水蒸気に関する名称を答える問題でも正答率が77.8%と市の正答率を上回った。</p> <p>●折れ線グラフを見て天気と気温の様子の関係について答える問題では、正答率が22.2%と市の66.2%を大きく下回った。</p>	<p>・今後も理科に関する各事象の名称や、その内容等、既習事項を繰り返し活用することで、基本的な用語等について知識理解の向上に努める。</p> <p>・図や表、グラフなどについての基礎的な読み取り方を丁寧に指導する。また、違いを比べたり推移を考えたりするなど資料に親しむ機会を設け、理解の充実を図るよう努める。</p>

宇都宮市立篠井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、市や県の割合を上回っている。このことから児童が家庭学習を習慣化し、自分で計画的に学習に取り組んでくることがわかる。

○「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時こくにねている」「早ね、早起きを心がけている」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、市や県の割合を上回っている。このことから児童が基本的な生活習慣の重要性について理解し、実施できていることがわかる。今後も学校での声掛けや、健康的な生活を送ることの重要性について話をするなど、児童が基本的な生活習慣を継続できるようにしていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問に肯定的に回答している児童の割合が、市や県の割合を上回り、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問に肯定的な割合をしている児童の割合が、市や県の割合を下回っている。自分の意見や考えを言語化する力や、話し合いを行っていく力がまだ十分に育っていないため、国語の授業だけでなく様々な場面や活動を利用してそのような力を育てていく。

●「自分は勉強がよくできる方だと思う」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがあると思う」という質問に肯定的な回答をしている児童の割合が、市や県の割合を下回っている。一部の児童の自己肯定感が低くなってしまっている現状があるので、授業中もそうだが、行事などの活動を通して学級全体で児童の自己肯定感を高めていく。

宇都宮市立篠井小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・読むことを通し、だれもが「できた!」「わかった!」「深まった!」を実感できる授業を目指して～主体的・対話的で深い学びのある国語の授業の実践～	○宇都宮モデルを意識した授業により、基礎・基本の定着を図る。 ・課題をはっきり、じっくり活動、すっきり納得させる展開を心掛ける。 ○学力差への手立てとして、個に応じた学習指導を充実させる。 ・学習掲示物やヒントカードの提示、TTなど授業形態を工夫する。 ○目的を明確にした学び合いの場を設定する。 ○一人一台端末等のICT機器を効果的に活用する。 ○授業研究会において効果的な指導について検討する。	・「授業の中で、目標がしめされている。」の肯定回答率は4年88.9%5年88.9% ・「授業の最後に、ふり返る活動を行っている」の肯定回答率は4年66.6%5年66.6% ・「学習に対して、自分から進んで学習している」の肯定回答率は4年88.8%5年77.8% ・「授業では、話し合う活動を行っている。」の肯定回答率は4年77.8%5年66.6% ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」肯定回答率4年88.9%5年77.7%

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では、書く、話す・聞く領域、算数では、図形の領域、理科では、エネルギーの領域に課題が見られる。	・苦手とする領域を意識した指導の充実	・当該学年では、苦手とする領域の問題の解きなおしを行い、全員で正答を確かめる場をつくる。 ・学校全体では、朝の学習や復習プリント(マスターカード)、AIDリルを活用し、苦手とする領域の問題に繰り返し取り組んでいく。
・どの教科においても、考えや理由を説明する問題に苦手な傾向が見られる。	・思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫	・授業の中で、友達と考えを伝え合ったり、説明し合ったりする機会をつくり、自分の考えを言葉にする機会を多く設定する。また、その考えを文章にする機会も取り入れていくことで、書くことに慣れさせる。時には、条件やキーワードを示し、それに合わせて自分で文章を組み立てられるようにしていく。 ・授業中は、板書を写すだけでなく、考えをメモしたり、まとめや振り返りでは、自分の言葉で分かったことを書いたりする活動を充実させる。